

# CSR課題・実績と目標

持続可能な社会構築に向けたさまざまな取り組みについて実績の開示とともに活動の評価を行い、次年度に向けての目標を掲げ

		2009年度の目標
重要課題1 金融機能を活用して持続可能な社会に貢献する		● 社会的責任投資に関するグループ各社の連携強化
重要課題2 健全な金融・資本市場を発展させ次の世代につなげる		● 経済・金融教育の普及に向けた取り組みの推進 ● 環境問題に関する情報発信の拡充 ● ウェブサイトにおけるサステナビリティ情報発信の拡充(継続)
CSRマネジメント		● CSR情報の収集および発信 ● 社内へのCSR情報発信の充実 ● CSRに関する社員アンケート実施およびCSR活動への有効活用
コーポレート・ガバナンス		● 財務報告に係る内部統制の文書化およびその検証業務についての一層の効率化・合理化 ● BCP(Business Continuity Plan:事業継続計画)の推進
コンプライアンス	グループ全体	● コンプライアンス研修の実施継続 ● 反社会的勢力対応態勢の強化
	大和証券	● 営業品質の持続的向上 ● 内部管理態勢の実効性と効率性の向上
	大和証券キャピタル・マーケット	● ファイアーウォール規制の見直し等を踏まえた管理体制の整備 ● 情報管理態勢の強化(継続)
情報開示(ディスクロージャー)		● 非財務情報の開示の継続 ● 効率的なIR活動の実施 ● IRツールの拡充および有効活用
お客様とのかかわり		● アフターフォローへの積極的な取り組み(継続) ● 営業員のスキルアップ ● 店頭スタッフのお客様対応の向上
株主とのかかわり		● 株主優待拡充への対応
社員とのかかわり		● 専門性とロイヤルティを兼ね備えたプロフェッショナル人材の育成 ● 高次元の「ワーク・ライフ・バランス」の実現 ● 日本の金融界をけん引する女性リーダー輩出に向け、女性マネジメント層の拡大を加速
社会とのかかわり		● 企業市民活動の社内情報発信の充実
大和証券グループの環境負荷		● 事業に伴う環境負荷の低減

〈活動の自己評価〉 ●:目標の実現に向けて大きな成果を得られたもの ○:目標の実現に向けて成果の得られたもの △:実施してさらに成果をあげる必要のあるもの

ました。

2009年度の実績	活動の自己評価	2010年度の目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>● グループ・部署横断的な協力関係を構築し、社会的課題解決に寄与するインパクト・インベストメント型債券を3本、約650億開発・販売</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>● インパクト・インベストメント型債券を1,000億以上開発・販売</li> <li>● 投資信託など他の商品においても開発を検討</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東京大学・北京大学とのアントレプレナー道場交流会への協賛等国内外との連携強化。寄付講座をはじめ、本業に立脚した産学連携を推進</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国内外の大学との連携強化、各取り組みの検証、充実</li> <li>● 社員に対し、金融哲学(金融担い手としての倫理)研修の実施</li> <li>● 「人生は選択の連続だ!」テキストを教員に対して広く配布</li> <li>● 学生を対象にソーシャルビジネスに関する勉強会を開催</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● グリーンイノベーションなど情報発信の充実を図った</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境問題に関する情報発信の拡充(継続)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● マイクロファイナンス特集をはじめとする、ウェブサイトにおける情報発信の更新・充実</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ウェブサイト、「ダイワ・証券情報TV」などを通じた情報発信を強化</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 重要課題2参照</li> </ul>	◎	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● イン트라ネットや社内報を通じた情報発信</li> </ul>	○	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● グループ全社員に対しCSRアンケートを実施し、CSRにおける課題の掘り出し</li> </ul>	○	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 財務報告の内部統制に係る文書化作業を整理・簡素化、検証業務の効率化</li> </ul>	○	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新連結会計システム導入による財務報告に係る内部統制の有効性向上</li> </ul>	○	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新型インフルエンザの基本的知識、対応策について各社員が確認できるよう対応ガイドライン(マニュアル)を策定</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グループ全体でのBCP体制構築</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多摩研修センターの代替オフィス機能を拡充</li> </ul>	◎	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企業倫理に関する検証、研修を実施</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企業倫理、コンプライアンス意識のさらなる徹底</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● e-ラーニングによるコンプライアンス研修の実施</li> </ul>	◎	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● グループ各社の反社会的勢力に対する情報収集、データの整備</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 反社会的勢力の排除・関係遮断態勢の強化</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公的団体等との情報交換による反社会的勢力の動向把握</li> </ul>	◎	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 営業店、本部部室の「自己改善努力」の向上・促進に主眼を置いた取り組みを推進</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 営業品質の持続的向上(継続)</li> <li>● 社内ルール・事務手続き等の再整備</li> <li>● 不公正取引排除態勢の強化</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● システム化、IT化の実効性検証のうえ、さらなる実効性の向上</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 内部管理態勢強化のための営業店サポート</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 利益相反管理の対象となる関係会社・取引の特定、管理統括者の設置をしたうえで、規定の整備、管理システムの改定、研修による周知</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 金融商品取引法改正に係る対応</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 法人関係情報管理に係るケーススタディ集の作成、周知</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 反社会的勢力対応等の強化</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● アニュアルレポートやビジネスレポート等のディスクロージャー情報誌や会社説明会等を通じて積極的に開示</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 非財務情報を含む大和の独自性や差別化が図れる情報の積極開示</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● コストを意識しながらIRの質や内容を充実。</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 効率的なIR活動の実施(継続)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● IRウェブサイト刷新</li> </ul>	◎	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ディスクロージャー誌等でよりわかりやすい情報発信。ユーザーフレンドリーなIRサイトになるよう、抜本的見直しを実施</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>● IRツールの拡充および有効活用</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 対象・目的別セミナーなどで国内外の相場見通し情報を継続的に提供</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アフターフォローへの積極的な取り組み(継続)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大和証券ホームページからのタイムリーな情報発信を拡充</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全社員のスキルアップ</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● AFP、CFPの取得をはじめ、各種研修、TOEIC受験の促進</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 店頭スタッフのお客様対応の向上(継続)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本部スタッフによる、定期的な現場チェック・指導を継続</li> </ul>	○	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新人店頭スタッフには実践的なホスピタリティ研修を継続</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 株主優待拡充への対応(継続)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 株主優待充実による個人株主の維持・拡大</li> </ul>	◎	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全社員がモチベーション高く働き続けられる環境整備に向けた人事制度の改定</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 専門性とロイヤルティを兼ね備えたプロフェッショナル人材の育成(継続)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● スキルアップ研修の重点の実施と語学研修の拡充</li> </ul>	◎	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 短時間勤務制度、復職支援体制、窓口相談、支援サイトの拡充</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高次元の「ワーク・ライフ・バランス」の実現(継続)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 19時前退社、年休取得促進、社内セミナーなどによる意識改革の推進</li> </ul>	◎	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新たに女性役員4名、女性部室店長6名誕生(女性部室店長は合計17名に)</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本の金融界をけん引する女性リーダー輩出に向け、女性マネジメント層の拡大を加速(継続)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ワーク・ライフ・バランス委員会および女性活躍推進チームによる追加策の検討</li> </ul>	◎	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ボランティア活動実績を社内報で随時紹介</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>● より多くの社員が企業市民活動に参加できる環境づくりを目指し、外部のNPOと連携し、社内情報発信の充実と活動機会の拡大</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ちよだボランティアクラブに加盟し、より参加しやすい環境を提供</li> </ul>	○	
<p>2009年環境負荷データ(CO<sub>2</sub>排出量、電力使用量等)は一部集計が未了となっているため、ウェブサイトにて報告予定</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● グリーン購入拡大に向けて体制を構築。グループ内での推進とともに、サプライヤーへの働きかけを実施</li> <li>● 効率的な環境負荷データ収集体制の整備</li> </ul>

x:実施できなかったもの